

# バストス週報

第六十八号  
昭和廿八年  
六月十四日  
発行

登録名義人

森 幸一

発行所

RUA PRES. VARGAS NO 188

バストス週報社

編輯発行人

織田 糸音  
C.P. 112

代 読

一年 60<sup>¢</sup>

外部 70<sup>¢</sup>

## バストス 二十五周年を迎ふ

一九二八年六月十八日わがバストス移住地が開かれ、本年の同月同日を以て満五年を迎へたのである。昔風の一世紀、亦に先陰は如く、古い話だが、今世紀の初めに、吾々の祖先が、海外飛躍南米へフラジルへの渡航熱の最も盛んであった頃、日本政府も本腰を入れて半官半民の移住地を構へ、海外移住組合の要望に応じた。バストスに相次いで移住地が設定され、アリアンサが之に加はつて、移住地の四大移住地と稱せられ、住移地創設の輝かしい業績に

綿花、養蚕、養鶏、蔬菜と生産面は次第に拡大して、いづれも邦人某団地の模範地が大戦終了後、澎湃として起つた新興地の危期に瀕したこともあり、省みればこの歴史にも、考らぬ苦難の道と歩んで来たことも言へる。現在入植者僅かに三百數十、但人地相合して、五百に充たぬ農家と市街地四百家族の微々たる勢に過ぎないが、彼等はよく祖産を守つて傳統バストスの精神を發揮し、茲に廿五周年の年輪を刻んだことは、バストス人にとつて大なる慶びでなく、はなはだなる喜びである。入植当時の氣鋭の士も年と共に頭を霜に頂き、旧移民の風も年と共に衰へて、次代の青年子女相繼いで進出し、新しい農法を取り入れ、父祖の地を耕すあり、商業工業其他行くとして、可ならざるなきバストスの後継者によつて、落ちついた移住地が再建設されようとしてゐる。自治会の後継団体バストス聯合日本人会は、陣容を刷新し、規約を改正して、再出發にシテ、トリアキ起して、萬全を期してゐる。

# バストス開拓二十五周年記念号

筆をいす、トを切つた。バストス移住地こそは、ブラッが最も力を入れて完成に乗り出した最初の移住地であつたのである。

が再建設されようとしてゐる。自治会の後継団体バストス聯合日本人会は、陣容を刷新し、規約を改正して、再出發にシテ、トリアキ起して、萬全を期してゐる。

## バストスのぬし

### 畑中氏の語る

#### あの頃の七心れた話

第一回の入植者が日本から到着したのは、一九二八年六月八日、A區と仮稱した現在のバストスに、I區に入植し、約一月経れて、バストスが到着、候せて六十八家族が先づバストスの草分けといつてよいであらう。これより前、入植者受入態勢整備のため、マイス旧移民がバストスの先住民族のようになつて居たことも、特筆に値する。霜に先住民及新来六十餘家の中、早天風其の土地を守つて居る人は僅かに數家族で、転業転住物故などさまじく、なコースを引きつ、バストスを去つた人が多し。其の後入植者新移民旧移民統々と入り来たり、開拓十年に充たすして、滿員止めの盛況を呈したものである。

長いことお目にかゝらん此でふと思ひついで畑中さん。お郎の門をくぐつたが、御不在。御旅行で？ いえ、島の方です。ハア、判つた唯、雄さんの方だ、判つた。ハア、判つた。雄さんが、その唯雄の家を知りな。何とかなるだらうと、そのまゝ歩



# CASA ESPERANÇA

祝 廿五周年記念

農具 農薬品  
陶磁 器  
硝子 製品  
電氣 器具  
金物 一式  
ヒドラマール印  
水揚用ポンパ  
取次販賣店

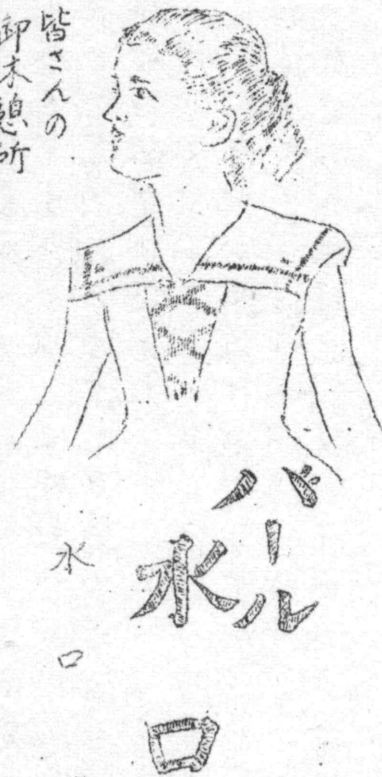
# 藤原金物店

店主 藤原直輔

バストス市 郵便九十八番

祝バストス二十五周年

清潔第一



御休憩所  
皆さんの

ハツケネカシアス街 C.P.五十六  
新オニマス ポント前

祝バストス二十五周年

石 碑  
人造石  
モザイク  
一式

セメント 細工所

杉山寅造

バストス市 郵便二六

FABRICA de ARTIFATOS de CIMENTO LADLILHOS. etc.

Rua O. Cruz 553 C.P.261

Bastos

を移すと組合の前で唯雄さんにはつたり  
會つてしまった。今お父さんの島に行こ  
うと思ふんだが、一寸判りにくいから  
知れませんが、あの横門をいつて右に曲  
じで折れて又左へ取つて右に曲り、何そ  
れで又又門の外に出てしまふ。  
インスチルトの建物は哀れや、窓がラスは  
一枚のこらあわれてしまひ、家根の大き  
な日尾は、おつて落ちか、り、門は傾き壁  
は落ち見る影もない荒れよう。  
旧さ都に、来てみれば  
浅茅が原とぞ、荒れにける  
月の光りは、隈なくて  
秋風のみぞ、身にけしむ  
沼の昔、新都福原から京の餘香と慕つて  
やつて来た徳大寺実定が詠んだといふ今  
様そつくりである。  
インスチルトに、来て見れば  
カラビツシヨの庭とぞ荒れにける  
冬日の光り、さんさんと  
山羊が一匹をねむり居り  
朝露にカルサの裾を濡らし、勝小僧に草臥  
きつて、ついでぬき足さし足、原蚕飼育場  
を後に、腕に下りてゆく、とバストの中と  
思ふあたり、にがりやと展けた、赫土の原。  
これなん、畑中の姓にふさわしき、仙農場と  
覺えたり、勤めてゐる、伯人に、桑ねと、大塚  
だといふ、棉でも、プランクするの、かとい  
ふ、と、いや、マテを植えるんだ、相だと三人  
の、外人は、セツセと、土を、れを、た、た、いて、草や  
木の、根、を、こ、より、出、して、居る。  
大した、工事（を）ではある、何万本植えるの  
か、知らぬが、うまく、行つたら、一回で、二百コ  
ノ、トは、欠けない、ナ、マイ、ス、か、な、と、四方へ  
眼を、く、は、り、下、ら、暗算を、や、つ、て、あ、る、と、向  
ふ、側、の、ハ、ナ、ナ、の、蔭、か、ら、畑、中、さん、が、労働、不  
お、ん、に、労働、情、と、い、ふ、い、か、め、し、い、い、で、ふ、ち  
で、ア、ア、ア、と、と、あ、ら、わ、れ、た、  
「大仕事と、始められ、ました、な、一寸お、邪  
魔、に、上、り、ま、し、た、い、や、こ、こ、で、立、ち、話  
で、け、こ、こ、う、な、ん、で、」  
「じや、ア、ア、こ、こ、へ、掛、け、ま、し、よ、う、と、畑、中、さ  
ん、は、半、糞、の、コ、チ、に、掛、け、ま、し、た、山、に、腰、を  
か、け、私、下、は、鶏、糞、の、サ、ツ、コ、を、積、ん、だ、上、に  
指、と、さ、さ、れ、た、  
「マ、テ、を、お、作、り、だ、相、で、お、い、分、度、い、よ、う、で  
す、が、ニ、アル、ケ、ル、ケ、ル、位、と、言、ひ、か、け、る、と  
ニ、アル、ケ、ル、に、少、し、足、り、な、い、が、依、地、に、は  
い、く、ら、か、葉、や、さい、等、も、や、り、たい、と、思、ひ、ま  
して、  
これ、は、中、々、隠、居、仕事、が、こ、ろ、で、は、な、い、畑  
中、さん、の、仕事、好き、こ、こ、に、農、事、方、面、と、な  
る、と、中、々、く、わ、し、い、よ、に、其、熱、心、な、こ、と、七  
八、年、前、畑、中、耕、地、の、一、角、に、も、藤、園、を、作、ら  
れた、が、当時、は、バ、ス、ト、ス、の、景、気、が、好、過、ぎ、で、  
聖、市、か、ら、野菜、を、輸、入、する、の、で、そ、ん、な、百、姓  
道、が、ある、か、と、少、し、は、かり、腹、を、立、て、て、バ、ス  
ト、ス、市、場、に、ワ、シ、が、野菜、を、供給、して、や、る、と



祝バストス開拓二十五周年

パトリック

ロイヤル

菊池豊

70レシネンテ、カアルガス街 四二六  
郵便 二三七

祝バストス廿五周年

古くから信用第一



後藤洋服店

後藤 兼 藏

ゴトウの  
は立て付  
折然える

バストス市  
70、ウアルガス街 四四二  
郵便 二四五

祝バストス廿五周年入植祭

千歳靴店

黒木 富 藏

ツツケテカシパス街 四二二  
郵便 一三〇

祝バストス二十五周年祭

薬局板垣

板垣 寿 勢 雄

バストス市  
アテマルバードス街角  
C.P 一二九

大愛な力の入れ方だったが敗戦宣傳運動の汚名を受けてカラビーンで狙はれたりついでに送られた組合更生運動にも第一線に活動し大きな功績をのこした。がじきにやめてしまわれた。深い事情は知らぬが何んと云って今度こうして廣い菜園経営に余生を樂しむことは畑中さんにとっても好きな道とて何よりの慰安であらう。

この上の方には柑橋類でも植えました。この下の湯地の蒲は出水の要心にしてこをおくつもりです。ホルマシましたら合議を受けて老後の樂しみといふ所ですか。と極し相に設計を語る。バストスの土地を切り売りした。当然の本人が今度少しはかり買ひ取って自分のものにしたいといふのである。草花々の野原にしてをくよりこの位の面積只で上げても宜からう。と思ふがどんなものであらうか。

「時に畑中さん今日日は古いお話を伺ひに上つたのです。先日承った一九二八年六月十八日の件です。あれはバストスの土地賣買契約が出来て登記をした記念日でしょう。場所は聖市ですか。」

「勿論聖市です。何となく役場が覚えていせん。前は地主のエンリツケバストスと云ふ人はその時既に物故して居りました。親戚のオスカルトムソン氏が一族を代表して出て来ました。その人は当時州教育局長か何でえらい人でした。プラ格を代表して青柳郁太郎氏と梅谷光貞氏が署名人でした。」

「梅谷さんはそんなに早く渡伯してゐたんですか。」

「そうですね。一九二七年十月にはもう聖市で計劃を立てて青柳さんが相談役見たような格でした。バストス家の土地が賣物にあつた。命令が最初これに着眼して私に实地調査の命が下つたわけですよ。」

「此の広い耕地をマツト時代にかうして調査されたんですか。」

「そりやアね、足がかりはあつたんです。イタリヤ人のピールバトが言ふのがバストス家から幾百アルケールを買ふてクワツト道から来たところ。北の農園を拓いておきましたよ。その男にたのんでカスカツタの人口から西に向つてとにかく一直線に歩ける丈の道をあけてくれといつてピカバナ線を歩いてくるからと。二週間ソカルナルネスの方を先きに視察しました。その外にも二三候補地はあつたのです。が一万坪以上ままとした。ところがなかつた。それともう一つは地價で一坪二五〇坪を越えてはいかんと。ふ制限があつたので中々おいそれといかなくなつたのです。」

(未完)



# 芝居の前景氣

バストス劇団は落穂頑次郎、島本倍幸の二名優本年不出場と決定の爲め一座に動搖の色が見えたが新にシヤカラ区より沢正一流の中堅を勤めどいふスバラシイのや五九郎の脇をやつたといふ珍像三名加へた爲め茲に捲土重來の陣容なり。二週間はかり前から本よみを始めた。取長は石橋光左エ門次席坂本公四郎の指揮で新作、赤城の夜嵐四幕まっただ狂言といたましは現代劇人情物人情警官涙の取物全五幕、その他抱腹絶倒おへソの宿替一幕の長劇相添へて御機嫌を伺ひますれば満場破れんばかりの御末場と紙上アサウンスをやつといてくれと頼まれありのまゝと報導することとした。金館の二階は役者は戸を廻らしてスツレンコロリと立廻りをやつてゐる。その外もう一つ芝居好きによる二人で賞ふことがある。七月十一日は舞踊の夕であるがその中へ、傾城河波の鳴戸と一幕入れることになつてゐる。お芳に扮するはバストスにさるものありときこえたる踊りの若手、名前にはぬが花、情緒纏綿たる母子の別れに大雨のような涙を誘ふこと必定、皆さんハンカチを三枚位用意されることをおすすめる。

# 入植昔噺 「思出であれこれ」

## カマラリリンチ物語

長橋 智品

廿五周年の週報記念号に草分の一人として当時子供であつた私に面白い想ひ出話があるだろうと糸音芝にこっつかまり何か書いて見る気になりました。

私の入植は昭和四年九月十九日で景移住組合(愛媛県)からバストス移住地の土地を購入して、もう一年建れたなら五十才となり家長の資格を失ふといふ父に連れられてモンテピネオで渡伯したのであります。思へばその父も今はバストスの土となり当時十四才の私も生れ故郷よりバストスの生活の方が遂に長くなつては舞ひました。当時カラ柘の計画として土地分譲は先がA区即ち今のクワリアB区今のカスカツタの一部とフロスレツソの一部といふ採に決定して居りました。中でも私達の現在居りますココカレツソの奥は当時としては非常に遠隔の地で不便の上もなく

祝バストス廿五周年

鞋教雜貨

# 小松商店

バストス市  
フレシデンテウアルガス街三二〇。  
C.P. 二二九

Toda

祝バストス廿五周年

# 戸田美容院

Saldo

バストス市アテマルバロス街二〇六  
C.P. 六四



祝開植廿五年

# ザル木村

バストス市フレシデンテウアルガス街312  
C.P. 七八

蓄音機 レコード

月刊雜誌 並 單行本

学用品 小間物 化粧品

御贈答品いろいろ取揃えま居ります

何卒御引立の程を





殊に吾々のような直来者には無理だとアラ  
 拓務務所にお百度を踏んで相談したので  
 ありませす。未だその時町の向ふのクワリ  
 ア正は十古斧鐵を知らぬマツトのまゝで  
 ありました。畑中支配人の云はれるには  
 君たちのはいる山はバス不停車場の予  
 定地に近いしニ三年してごらんなき汽  
 車がつくようになつてバス一の便利  
 な処となる。無理矢理に入植させられ  
 たのであります。其の当時今のイアクリ  
 驛の入口附近の森の中に大きな立札があ  
 りました。墨黒々と日本字でバス停傍  
 車場予定地と書いてあるので、アあの着  
 板に一縷の希望をのまないで居つた譯であ  
 りませす。然しスラ格も中央からはなれた  
 あんな奥の方に吾々を追ひ込んでなれた  
 変な犠牲を拂つて面倒を見てくれました  
 中央の收容所から朝晩カミニオンで送り  
 迎へして貰ひカネを植えたり家を建て  
 たりして貰つた入植したのであります。た  
 然し汽車の方は三年まつても五年たつて  
 も来てくれません。まる／＼半年首を長  
 く待ちくたべられた頃通過することにはな  
 りました。が御承知のような有様、とんで  
 もない向ふの方で地響きが致します。  
 此の同も本部の友達からこんな一句を頂  
 いで思はず苦笑を禁じ得ませんでした。  
 汽車着かぬバス不駄や天高し  
 さて前置きは此の位にして当時の愛つた  
 出来事として子供の私の記憶になま／＼  
 しくのこつてゐる。フクソノ事件とい  
 ふのをお話し致しませう。  
 読者の中には此の事件を良く知りてゐる  
 人もあろうかと思ひます。そつ／＼お方  
 は黒眼鏡でしかけてよんで下さい。  
 ○それは昭和六年四月廿九日  
 の天長節の日の出来事でありました。当  
 時の天長節と云へば私共新移民にとつて  
 は大変な難力で盛大に催し物なやつた  
 ものです。朝は早天から花火を打上ホオ  
 三小学校、即ち現在のフクソノ小学校  
 に区民全部集合、堂々として日の丸を掲げ居  
 が代から式が始まり勅語奉読、萬歳三喝  
 と祖國の式次第のまゝ、それから式後は  
 区民慰安大運動會の上を下の大騒がで  
 す。家長さん達は新移民のくせにあの強  
 いピンガをい／＼とあほり暮声を張り  
 上げて運動會の応援です。母國で聞いた  
 フラジルの宣傳より来て見て實際のフラ  
 ジルが桁外れに悪いのでウツソノ晴らし  
 のヤケ酒だったのかも知れません。  
 子供の私達も一月も前から天長節の運  
 動會を楽しみにして待ち二三日前から青  
 草達はその準備の爲め毎日学校に集り、  
 といふ有様でついで興奮して夜もろ／＼  
 眠れないといつた状態でした。  
 当時此の様な値物のある場合必お出て  
 来る村の親役で学務委員に決田といふ五  
 十才位の元氣のいいおちさんが居りまし

祝バス入植五周年祭

ファルマシアセントラル

中央薬局

五川 誠一

アネマールバロス街

郵函一三三

祝バス入植二十五周年

小茂田呉服店

小茂田 光明

ツツケネカシアス街四五六

郵函一二三

期日 六月二十八日(第四日曜) 正午より十九時止

場所 バストス産業會館に於て

○正午より各講師並に一般誌友の

体験談

○午後七時より

河野先生 一 西講師の講演  
 高保先生

パウリス夕

生長の家 誌友大會

但し誌友以外の

一般各位の 御來聴を

特に歓迎致します

かつそ皆々様萬障御繰合せの上

お誘ひ合はされ

擧げて御來場の程

御待ち申上はます



夫、もう他界されましが、アラジルに古くモジアナ大学を卒業してゐる上に、日本で非常な何かをやつたといふ肩書もあり、その上、非常な物織りで、旧移民といひ、ひ下りとも、重宝な存在でありました。お酒の方、十分先輩として、スバ抜けて居りました。今日、今日の天長節にも、オチオチの顔が、一番に見えます。何時の式にも、そのオチオチさん着てくるのです。が、今日もその色の、大分退せて、所々黄色く、光つて、いる燕尾服を、一着に及びまして、先生句調で、一湯の祝詞を述べたのでした。

式後、そのオチオチさん、燕尾服のような上衣を取つた時、六連發の三十八番が、腰に差込んであるのを見、私達子供はそのまわりを取り巻き、ドエライおかしさんだと、今更下り尊敬の度を一段と高めた次第であります。

運動会は、プロクラムの通り、家長婦人子供と、競々進み、最後、近づく、と、青年の組、別り、レীগ、あり、例のおかしさん、アルコ、ル、が、廻り、すぎ、て、フラ、と、出て、来た、か、と思ふ、と、スタ、ト、と、わ、れ、が、や、る、と、云、つ、て、腰、か、つ、ト、リン、タ、オ、イ、ト、を、引、抜、い、て、パ、ン、と、笑、弾、を、ぶ、つ、放、す、と、い、ふ、勇、し、さ、を、れ、が、ら、お、か、し、さん、便、所、に、行、つ、て、大、事、な、六、連、發、を、落、し、て、しまふ、と、い、ふ、具、合、今、思、ひ、出、し、て、も、笑、止、ま、な、さ、な、話、で、す。

運動会も、愈々最後の紅白綱引が、すむ、と、太陽は、西方の、マツトに、落ち、ん、と、し、主、婦、連、は、夕餉の、仕度、や、家、畜、の、世話、で、ホ、ッ、と、帰、り、は、い、の、國、旗、は、下、さ、れ、盛、大、な、運、動、会、も、無、事、に、了、つ、て、家、衣、さ、ん、た、ち、も、千、鳥、足、や、ら、大、声、放、歌、や、ら、人、の、肩、に、つ、か、ま、つ、て、帰、途、に、つ、き、ま、し、た、帰、り、の、道、は、埃、と、夕、陽、で、ト、ロ、ン、と、して、居、り、ま、す。

其の時、才、突、如、と、して、奇、声、が、挙、り、ま、し、た。何、事、か、と、皆、が、走、り、寄、れ、ば、後、藤、と、い、ふ、お、か、し、さん、が、廿、歳、位、の、一、半、煎、カ、マ、ラ、イ、と、捉、へ、何、か、と、な、つ、て、居、る、の、で、す。オ、ツ、セ、未、だ、こ、ん、な、所、に、居、る、ん、か、と、い、ふ、ベル、ゴ、ニ、ヤ、奴、が、ヤ、カ、ヤ、カ、と、笑、外、人、は、隙、を、ね、ら、つ、て、人、垣、か、ら、逃、れ、始、め、ま、し、た。す、る、と、その、後、藤、さ、ん、ソ、マ、ツ、逃、が、れ、て、な、る、か、と、つ、つ、か、ま、え、ろ、と、叫、ぶ、の、で、青、年、連、も、面、白、半、分、短、巨、離、な、ら、お、手、の、も、り、命、が、け、で、走、る、件、の、外、人、と、い、う、押、へ、て、し、ま、い、ま、し、た。処、で、私、は、何、の、為、に、此、の、外、人、を、捕、へ、た、の、か、さ、つ、は、り、解、り、ま、せ、ん。あ、と、で、後、藤、さ、ん、に、さ、く、と、彼、の、半、煎、は、已、内、を、廻、つ、て、任、事、を、探、し、寄、の、留、子、の、家、を、見、れ、ば、井、戸、端、に、廻、つ、て、水、を、乞、ひ、女、の、手、を、握、つ、た、り、愛、を、真、似、さ、す、る、ん、だ、相、で、す。その、内、に、つ、か、ま、つ、て、警、察、に、引、渡、し、た、若、者、の、に、ま、た、毛、ろ、彼、奴、が、舞、戻、つ、て、来、て、居、る、の、を、見、つ、け、た、の、た、か、ら、た、ま、り、ま、せ、ん。腹、を、立、て、る、の、も、当、り、前、で、す。その、内、元、氣、の、い、い、家、長、さ、ん、ア、ル、コ、ル、の、廻、つ、た、お、か、し、さん、が、追、々、集、つ、て、参、り、ま、し、た。以下、次、号、を、お、待、ち、な、さ、い。



祝バラストス開植二十五周年

呉服部

アデマール・パロス街

太物を、何でも揃ひます  
在庫品豊富  
とっさり仕入れて御座います  
優美な冬物  
目のさめるような新柄

前田呉服店



みしんボルダの図

みしん部

遠近に不拘  
御届申上げます

パワファミン 総理人

前田青人

一家に一台  
パールみしん  
お嬢さまへのこよなき贈り物  
堅牢優美 円滑快調  
一〇〇%



バストス写真會報

来る七月十一日より十四日迄四日間

入植祭写真展會開催につき

會員諸氏は必ず一人二点以上

御出品下さい

會員外の方でも出品差支へありません

出品締切りは六月三十日嚴守

本年は審査方法を一変しまして

聖市のコロニア写真界の最高峯

と言はれる方三名に依頼しまし

たので持参する都合上メ切を嚴

守いたします

コメツタ 寫真館  
宮崎 寫真館

バストス入植祭廿五周年

祝賀

俳句大会

日時 七月十二日十一時より

場所 糸音居

兼題 枯寫、小春

一人通じて五句当日持参

會費 式拾銭

賞品 高点賞 得点賞には特に

やんごとなきお方の也紙短冊

を贈呈、賞品山の如し

會員外の方の参加、飛入りをも

歓迎いたします

主催 仙人掌 社

祝バストス移住地開拓廿五周年



株式會社

南米銀行

バストス支店

郵函一一四番



バストス歌壇

アララギ四月号入選歌

山本一男

妹の墓地購入の手續をすませ供養の  
光を購ふ  
吾が庭のココ椰子に鳴く蟬の声に  
良く合ふ姪のアララギ國歌

吹本菊子

漸くに水力電氣のつよし今宵孫う  
はしやギレコードをかける  
満員のバスの車掌は屈強なニマス  
たたせわれをかけさす

小松修水

逝きし君に思ひ凝りの行く夏野  
たい銀色に穂のマルゴゾ

政東敬二

表庭のミリーヨはやや伸び揃ひ  
重れ葉は月に光りゆれをり

石橋奇峯

次々と来る慰問使の應接に疲れ見え  
初む移民の村々

浅田孤舟

寒き雨暗れ上りたる朝にてすがれく目にぬも  
笹の一むら

織田糸音

葡萄語にては説きかたきことあまたある  
日本神話を語るたのしみ

池田夜詩緒

百二十度の気温に負けしうのわらはは  
冷しそうめんに晝餉をすます

重道千代子

幼りの留守する為めか今日一日辛ふ  
兄弟の声もきこえず

吉田あづま

家人等に氣むつかしさを嫌はるる夫は  
時々人に騙さる

森重羊鈴

汚れなき白さに咲ける月見草  
月照る宿の庭に静けし

入植祭特輯号発行日程

第一輯 六月十六日 第二輯 六月二十三日

第三輯 六月廿九日 第四輯 七月七日

第五輯 七月十二日 と五回に分けて発行し  
ます、頂いた廣告も自然分載となります

故御承知下さいませ

最新式の機械と二十年の経験  
迅速丁寧・お客様本位

ドライ  
クリーニング  
白沢

祝入植祭  
アテマルバロス街二四二

C.P. 六十九

祝バストス入植祭廿五周年

バル中村

中村 政

アテマルバロス街角

C.P. 一〇二

祝バストス二十五周年祭

常に新柄を豊富に取揃えて  
居ります

杉呉服店

アテマルバロス街二六七

C.P. 一八一番

雑貨種物 一切  
極上安値な壓力鍋

植木商店

バストス市

アテマルバロス街

C.P. 五十三

祝バストス入植祭廿五周年



バウル 100000  
バスト 14736  
31

主審竹田、一壘佐伯、二壘竹内、三壘佐藤、マリーヤを倒した騎虎の勢、バストは佐居をマウンドに送り、五日目、三試合終了、近十八打者の内三振十本を奪い、コナーを切る球はよく定まり、素晴らしい出来であった。攻撃では三回十七点を奪い、遂に一方的試合に終わった。斯くて全体的な場を暗けた本大会も、無事にやり、予想通りバストチームの優勝する処となり、栄ある優勝杯はバストチーム主将岡本君の手に、ホームラン賞はマリーヤ村上君に、打撃一位は入割一介のバスト、中熊君へ、致謝賞はバウル、高橋投手へ、それ、授賞された。閉會式が夕陽迫るバスト球場を、巡る少年選手の胸には、来る可き全伯制覇への希望で、ふくらんで、ある事であらう。観衆の帰ったあとには、多くの紙片が散らして、今日の激戦を物語るが、よく一沫の林、いさ、が漂って、あつた。橋筆にあつて、バスト少年軍の全伯永久運覇を祈り、マリーヤ、バウル、両チームの今後の精進を共に祈ってやまない。(一九五三年七月七日夜)

感謝の生活

我が愛するバストの皆々様、勉めて我が家庭を光明に朗かに致しませう。神佛に國恩に祖先の冥に父母に夫や妻に兄弟姉妹に、吾使に一般の人々に、日々感謝し、和解し、天地萬物に感謝致しませう。若し自分を苦しめる者が有りましたら、自己を鍛へて下さる恩人だと思つて感謝致しませう。若し自分を侮辱する人が有りましたら、自己を奮ひ立たせて下さる恩人だと思つて感謝いたしませう。取越苦勞や患痛や心配をせず毎日朗らかに笑つて感謝の日送りを致しませう。朗かな笑ひは自然が興へた最良の強壯劑。暗やかな笑ひは自他の榮養劑。家庭の明暗は家族一同の笑ひの分量に依る。笑へば盛んに笑つて憂鬱と病氣を吹き飛ばし、明るく楽しい光明の家庭に致しませう。 岡 田 老 生

週刊虚報

帝國の將來を憂ふるの士は、道んで再軍備に協力せよ。帰國旅費をもち持ち。我々特務機關バスト支部

祝バスト入植祭五周年

佐藤 勇

アテマル、バロス街 二六二 郵函 二八〇

農産物仲買商 棉、ミリヨ、ズイン、ン一切

優美なスタイルは

スマートな洋服より

申城洋服店

ツツケテカシアス街 四三八

郵函 第五六番

祝入植祭

〇〇〇〇〇

ESCRITORIO ESTECOR

RUA ADEMAR de BARROS C.P.45

東 華 勢 研

東 ビ ト リ オ

アデマル デ バロス 街 郵 函 四 十 五

商業事務一功 帳簿整理 諸願書作成 公認デスパシアンテ







### トランドール組合員に急告

去る十日佐野食堂にトランドール組合員廿五名集合。五月廿七日附官報発表の如くトランドール運転にも自動車運転手のカルタが必要なので協議の結果六月三十日迄にエステコル東事務所に手続することになった(自動車運転練習希望者は森田鉄工場に相談すれば一時間百針にて教授す) 其の他協議事項、本年度アラード賞一域一コント也(但しサマ、畑、カホエイラは別) スラネ一域五百針也 時間制の場合は一時間百針のこと。

### トランドール 大行道

七月十一日午前十一時トランドール市中一大行道開催 トランドール会員のニラホ出勤植祭行事に協力された

### 御礼

バストス少年野球

### 後援會

六月七日改ハワシメ少年野球大会の節は賣店をお開き下さった上、その純益金全額を、全伯大会へ出場の費用の一端にと少年野球後援會へ御寄贈下さいましたことは何と御礼の上お楽しみない感歎です。謹んで御礼申し上げます

### バストス婦人會 謹言

当日売店にて御骨折りの諸嬢皆々様

本文は廣告ではありません。其のおつれりで御覧下さい

### 南麻州の首都 ドラードス市の紹介

中心地分譲

商賣も、農業も此の頃は大した大儲けは無いようです。物價は高騰するばかり。貨幣價値は下落するばかり。

此の時に打つ手は、確實な不動産への投資の一手あるのみです。

麻州 ドラードス市の中心地 タッタを御求め下さい。

ロンドリーナ市に匹敵する發展振りは

ココニア フェテラル (連邦政府直営) 三千家族  
唯一の町であるからです

郡 堂 コロニア

◎ コレトールではありません。地権名義 西 徴 で御座います

御安心の上 御投資下さい

僅かしか残って居ませんから至急御申込下さい  
入金三〇% 残金ニ〇回拂

余り格安なので、町になるか、先の見透レのつかない所のタッタかと御不審を  
受けますが、ドラードス市は、コゴルカ人口万余を数え、二階、三階建が立ち  
並び定期空路、ロンドリーナ、サンパウロ、カンポランテに通じ既に大都市の風車を  
備え、止むことなく發展を続けていますから、恐らく今後こんな掘り出し物に逢  
ふチャンスは又とありますまい。

バストス商業事務所

西

徴

祝入植祭

### 養蚕歩合 家族

御希望の方は左記へ御たがね下さい

クロリア Ⅱ Ⅲ イ Ⅳ Ⅴ 前 田

桑園、蚕室、住宅、完備

優遇、一寸委細面談

### 評判の DDD

### 管原式 指壓治療

いかなる難病でも指壓とソルツクス  
(高周波紫外線電氣治療器)とを以て  
意外の効き目に驚かれます

肩のこり、腰痛、神経痛、ロイマス、動脈  
硬化、視力減退、その外のことよく効く方

カネササレス街  
バネランテ組合時代場より上、三丁目

管原



# 日本移民入植決定の ドラウウド植民地遊記 (一)

余 滴

コンチネンタル土地会社副社長渡辺パウロ君  
と同道して日本移民五十六家族が入植するマ  
トスロソ州ドラウウド植民地の視察に出かける  
べくロンドリーナ飛行場の待合室に辿りついた  
午前八時出発である、聖市よりのレアル機の  
英姿が滑り込んで来た、其の機に乗るので  
ある。出発時間はとうに過ぎて一時半たった  
まだ、雨はやまない、飛行場は雨煙で端  
の方は見えな、寒、雨風が待合室のベラン  
に吹きつける、それより半時間やや小降りにな  
った、打声機よりパラナバイ、ドラウド、ポルト  
ラン(國境の町)方面行の出発を報ずる。  
洋傘を差しかけられながら待合室より飛機に  
到る。ロンドリーナの町は雨煙で見えない、生れ  
て始めて機上の人となる、二十七人乗満員で  
ある、週三回の航空路である此のコースは、四  
五日前に予約しておかないと席がとれないの  
である、機はカンホを滑って行く、飛行場の  
はしてフロペラの全力廻転、物すごい唸り、發  
動機の調子はよいのである、機はカン  
ホの正面に向きが変り滑走、離陸、上昇  
雨煙りの地上はすぐ見えなくなった、とちうの  
窓も真白で何も見えない、機はゆるく、  
腹の痛い位に腰掛に縛りつけた、氣持のわ  
るゝこと、スウーと地獄に引き込まれる様だ、  
上昇引さ下ば、エアガールはあちりの腰掛ごち  
らの腰掛けと、よろけ下つても耳氣でナービスして  
居る、カネーを持って来たがカネーごちで、  
頭をすりつけ、両手はしつかと腰掛をつかみ、腹  
を少し横に両足を踏張って地獄に引き込まれ  
まいと頑張つて居る初来りの私の哀れな  
姿である、日本人とか男だとかのフライドは  
何処かへやってしまつて第一コース、パラナバイは  
まだかと待つ、隣席の伯人も今日はひどく揺れ  
ると蒼い顔をしていた、だんくくと白雲がうすれ  
市街が下に横はっている、パラナバイに着陸す  
る所である、地上にふれた機のバフンドがひどい  
が何程揺れても地上の人となつたといふ安ん感  
は嬉しいものである、シタで腹が痛、それ程  
締めながら飛行中はまだ締め足らぬ感じ  
であった、雨はやんで居た、土を踏む可く立ち  
上る、エアガールが何か言つて居る、昇降口のホ  
ルタを開けたら雨水が何處に溜つて居たのか

下らんへー

## 祭 入 植 年 五 十 五 年 ス ト バ ス 祝

# アウト ロマン組合

○ 汽 車 時 間 表 (イアクリ駅)				
ロマン バスター發	七・五〇	一五・〇〇	二一・一五	
聖市行	八・二一	一五・三〇	二一・四七	
ロマン バスター發	七・〇五	一二・五〇	一九・一〇	
アガマン チーナ行	七・三五	一三・二一	一九・四四	

頭よりのふり、ずぶ濡れとなる、その為めのも  
わがであった、パウロ君に今日は揺れるんぞろ  
と言へば、普通だとの事である、ドラウド近行  
かまに、パラナバイで降りてしまをうかと思つた、又  
物凄雨が来る、あの雨が来たう又飛び立  
つんぞろうと言つて居る内フロペラが廻り出した  
スラムのカンホ、パラナバイに左様ならしてぐんぐ  
上昇、雲にあたる度びに機が揺れる、いそいで  
シタを強く締め、又々スウーと引き込まれる氣  
持の悪いこと、揺れ出すとエアガールが出てくる  
のは力強いものである。

以下次号へ